

非認知能力を育む乳児保育のための 教材研究アクションリサーチ

西川 晶子

1. はじめに

米国の経済学者ヘックマンによる研究により、子どもの非認知能力への関心が国家レベルで高まったと言えるだろう。まず経済学的な視点から公共政策としての教育に国家が支出する場合、未就学児に対する施策が非常に有効である、ということ。次に幼少期に非認知的な能力をつけておくことが成人後の幸せや経済的成功と結びついているということである。

また OECD（経済協力機構（2015））は認知能力に加えて社会情動的スキル（非認知能力）が高いと社会的・経済的に成功しやすいことを明らかにしている。

従来人間の一生の適応を支えると考えられてきた、いわゆる賢さや知能指数等で表現される認知能力だが、幼少期の認知能力を高める教育はそのままでは長続きしないだけでなく、かならずしもその後の人生の幸福や経済的達成を一貫して支えるとは言えない、むしろ非認知能力といわれる能力が貢献しているという報告に大きな注目が集まっている。

秋田ら（2016）による国際比較によれば、就学準備が重視される欧米では認知、運動、言語、社会情動的スキルを伸ばすことが重視されており、北欧では子どもの権利としての遊びを重視している。それに対して日本では、「生活を生活で生活へ」という倉橋惣三の言葉に象徴されるように日々の戸外での活動や遊びを重視しており、「健康、人間関係、環境、言葉、表現」という乳

児期に望まれる生活体験をもとにカリキュラムが構成されてきている。

その立場からすれば、すでに行われてきた伝統的な日本の保育の中に、多分に非認知能力を育む側面があったともいえるだろう。しかしながら、先行きの見えにくい時代の中で、保護者からは、英語や算数などの認知的な向上や、短期的な集団適応への成果を求められ、少子化における園の生き残りのために、才能教育といった安易な差別化に向かう園も少なくないといえる。このような現象は世界的な保育学の流れにいわば逆行した、従来型の認知能力向上に重点を置いたものであるといえよう。

このような転換点において、保育士養成の現場では非認知能力をどのようなものとして学生に伝えるのか、その方法論は、といった様々な課題が浮き彫りになっている。

2. 非認知能力なるもの

遠藤ら（2017）は、これまで人生への適応を生涯支えようと考えられ注目されてきた認知能力に代わり、むしろ非認知能力の重要性が注目されるようになってきたが、非認知能力について十分な整理がされているとはいえない、と我が国の現状を捉えている。認知的でないという意味では広範囲の能力を指しているが、遠藤ら（2017）の報告では、社会情緒的コンピテンスの内容として『自分と他者・集団との関係に関する社会的適応』及び『心身の健康・成長』につながる態度、そしてまたそれらを可能ならしめる心理的特質』としている。

OECD（2015）では社会情動的スキルを具体的には「目標の達成（忍耐力、自己抑制、目標への情熱）」「他者との協働（社交性、敬意、思いやり）」「情動の制御（自尊心、楽観性、自信）」と定義している。

さらに OECD（2015）では社会情緒的スキルという概念を

a 思考、感情、行動における一貫したパターン

b 学習経験を通して発達し

c 個人の人生を通して社会経済的に影響を与える能力としてここでのスキルの定義を

- ①個人のウェルビーイングや社会経済的発展の少なくとも1側面に寄与し (productivity)
- ②測定可能 (measurability)
- ③環境の変化や介入によって成長可能なもの (malleability) としている。

3. 非認知能力に対する議論

西田ら（2018）はこのような社会情緒的スキルは“社会的望ましさ”のバイアスやノイズが含まれやすいとして過小評価されがちだったとしている。また認知能力ではない、という意味での非認知能力として、この能力がヘックマンらの研究において実際に測定されていないと指摘している。

遠藤ら（2017）では、非認知能力社会情緒的コンピテンスを深層から表層の3層に分けて、表層には短期的に習得可能なスキルやマナー、中間層として ライフイベントの経験や学習の蓄積によって変容可能な自尊心、自己効力感、自制心、メタ認知、自己内省、社会的行動や共感的態度コミュニケーションスタイルが存在し、深層には、容易には変化しにくい気質や、パーソナリティ、内的作業モデル 自他信頼感が存在し、非認知能力の絶対的基盤としての基本的信頼感とアタッチメントの質は媒介要因および調整要因として影響を与えているとしている。

また沼山（2019）は遠藤ら（2017）の報告から非認知能力に向けた世論の衆目について、就学前の非認知能力について、ヘックマンらのプロジェクトが非認知能力について計測の対象としていないこと、貧困はく奪状況の家庭の子どもへのキャッチアップ効果であることが、かなり恵まれた教育環境にある我が国の子どもたちに適用するには、論拠が不十分であると、慎重な立場をとっている。

4. スキルがスキルを産み、非認知スキルが認知スキルを生む

OECD（2015）における注目すべき点として、認知、非認知の各スキルは、個人の中に蓄積される性質をもっており、スキルの高さが獲得するスキルの大きさを産むということである。また社会情動的スキルの敏感期は人生のより初期にあり、社会情動的スキルの高さがその後の高い認知スキルを予測するという。したがって乳幼児期における非認知スキルの育成はその後の認知スキルや人生への高い適応に資するもっとも効果的な介入といえる。

5. 保育現場で育まれる非認知能力

Gutman&Schoon(2013)による非認知能力についてのメタ分析で①測定法の質②可変性（成長可能性）③ポジティブなアウトカムへの効果の波及性④エビデンスの強さ という変数を整理したまとめによれば、非認知能力に含まれる心理学諸概念のうち有力になるのは **自己効力感 内発的動機付け メタ認知**（メタ認知については幼児期には未熟で介入は難しい）であるとしている。

乳児期および幼児期前期では安定的なアタッチメントの形成が自己効力感、内発的動機付けの基盤となる、そのうえで幼児期前期に自己効力感と内発的動機付けへの介入が考えられる。

自己効力感は未来の特定の課題の成功可能性に関する個人の信念（Bandura,1977）であるとされ、乳幼児期の適切な介入によって可変である。

内発的動機付け

高い学習の質の高さと創造性、心理的ウェルビーイングの高さと関連（Vallerand 1997）実験状況において操作可能（Deci,Koestner, & Ryan1999）有形の報酬によって内発的動機は減少する。一方で選択自己決定することで内発的動機が促進される。

筆者は、乳児保育場面における自己効力感、内発的動機付けを育むための保育として、乳児の自発的な探索活動を守ること、それは環境構成、保育計画、保育士の関りから行われると考える。**安定した愛着関係を土台として、活発な探索活動の邪魔をしない保育**である。また内発的動機は外的な報酬によって低減するため、褒めすぎない、また安全や効率を思うあまり、規制しすぎない、ホメホメもダメダメをしない、環境構成において一人ひとりの探索活動を**充分に保障する時空間を保育者がデザインする**。ことが乳児保育場面において必要だと考える。

6. 保育士養成教科書等に記述された非認知能力

佐々木（2018）は上記のような非認知能力の実態に対する議論に対して、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂（2017）から幼児期のはぐくみたい資質・能力の「3つの柱」として【知識及び技能の基礎】豊かな体験を通じて感じたり、気づいたり、分ったり、できるようになったりする

【思考力、判断力、表現力等の基礎】気づいたことや、できるようになったことを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする

【学びに向かう力、人間性等】心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

を引用して、特に【学びに向かう力、人間性等】が非認知能力と関係が深く、および、【知識及び技能の基礎】における「感じたり、気づいたり、」という部分が【知識および技能の基礎】と深い関係があるとしている。

またこれらを現場で活用しやすい枠組みでとらえなおし、非認知能力の3つの柱として

気づく力 ・好奇心 ・驚嘆する力（感動） ・探求心

やりぬく力 ・情動をコントロールする力 自信と自尊心 期待と楽観性

・課題の達成に向かう力やる気（目標への情熱）がんばる力（忍耐力）

人間を理解し関係を調整する力 ・異質なものととの出会い ・異質なものととの

興味や関心・他者との交流 ・関係性をつくる

と捉えなおしている。

大豆生田ら（2019）は乳幼児期の主に保護者に向けて、非認知能力の基盤としてはまず**安定したアタッチメント**がすべての基盤になるとし、そのうえで**自発的に遊び込むことの重要性**、大人からみていたずらに**思うことも重要な主体的な探索活動**であると述べている。さらに集団適応にむけた過度なしつけ、突き放しや脅しには警鐘を鳴らし、イヤイヤ期に必要なのは厳しく叱ったりすることではなく、子どもが自分の気持ちを切り替えることができるようにお手伝いすることだと述べている。また非認知能力を育てる子育てで大切なこととして

- ①親子のスキンシップや甘えなどを通して、心の安全基地を作る。
- ②子どもの個性（その子らしさ）や主体性（自己決定）を大切にする。
- ③子どもががんばっている姿をほめ、小さな成功体験を大切にするなど自己調整力を育てる。
- ④多様なあそび体験を通して、好奇心を持ったり、夢中になる経験をする
- ⑤外あそびを通して多様にからだを動かしたり、自然にふれたりする経験をする。
- ⑥絵本の読み聞かせを通して、コミュニケーションや言葉への興味を大切にすることを保護者に提案している。大豆生田らの主張は集団適応や認知能力の発達に偏重しがちな保護者の心情に警鐘をならし、アタッチメントと主体性や探索活動を重視したいいわゆる「のびのびと子どもをそだてる」ための提案と捉えることができ、認知能力とは異なる非認知能力というターゲットに対してはやや絞りの甘い記述になっているが、そもそも従来型の子育てや保育において「のびのび」「子どもの気持ちに寄り添って」という言説は多く流布しているため、違いとしてはやや見えにくいものになっている。

7. 集団適応と個の問題

筆者は非認知能力育成への取り組みが遅れてきた理由の一つとして我が国の保育における集団適応の重視があると考える。集団生活のための時空間管理の中に置かれた場合には従順さや大人の意図を汲み取って行動する、表面的ないい子が育成され、それは短期的な集団や学校生活への適応でしかなく、30歳代、40歳代といった長期的な人生への適応や困難にあったときのやり抜く力とは違うベクトルの方向にあるのではないかと感じているからである。

そもそも乳幼児期は個人の欲求と、園での集団生活との間には大きな乖離があり、保育者は粘り強い関わりを通して、集団生活や生活文化を身に着けさせ適応をよくすることを目指す。したがってそのような日常の中で子どもの個性や主体性を大切にすることは、保育者にとって多大なエネルギーを必要とする、困難な作業である。個と集団適応という保育現場における長年のテーマであり、多くの現場で様々な議論や工夫が積み重ねられてきたことであろうが、近年の非認知能力の長期的効果についての注目は、そこに乳幼児期の個の尊重にひとつ重みが加わったという事ではないだろうか。

8. 本稿の特徴

本稿では遠藤ら（2017）の報告をもとに、非認知能力を、教育および環境の介入によって成長可能で、測定可能、その後の人生の適応についてポジティブに作用するスキルとして整理し、教材化する。そのために、非認知能力に関する既知の情報の確認、整理、をする。

非認知能力への注目にあわせて、非認知能力を伸ばす保育を謳った教科書も複数出版されている。保育士養成校における科目学習において、非認知能力という新しい用語を用いて、何をどう伝えるべきなのかについては整理、考察し、学生にむけて非認知能力を伸ばす保育とは何か、問いと考察、実践へのヒント

を伝えるための教材づくり、研究授業アクションリサーチを目的としている。

9. 教材の作成

①本研究における非認知能力を育む乳児保育のための教材として、佐々木（2019）による非認知能力の3つの柱を採用して、PPT教材作成を行った。

②乳児保育科目のため2歳児クラスを仮定する。

③研究授業の目標

- ・非認知能力とは何かがわかる
- ・3つの柱を伝える気付く力、やりぬく力、人間を理解し関係を調整する力
- ・3つの力について2歳児らしい事例を示して理解を促す。
- ・非認知能力と認知能力は相互に作用しながら発達することを事例をしめして理解を促す。
- ・すべての能力発達の基盤として安定した愛着、安心して探索できる保育者と園の環境が機能することを理解する。
- ・非認知能力を発達させる環境構成が理解できる。
- ・非認知能力の発達を阻害してしまう関わりがわかる。
- ・探求の邪魔をしない、ほめすぎない規制しすぎない保育について考える。
- ・突き放す、取引きなどの適当でない言葉かけについて理解する。
- ・自らが行う可能性のある非認知能力を阻害する保育における行為について考える。

10. 手順

手続き

①事前導入として、非認知能力について調べわかったこと、出典と感想の提出を求めた。配布プリント抜粋

(資料 1)

乳児保育Ⅰ 課題 Aクラス 11月7日授業時に提出 Bクラス 11月14日授業時提出 西川

乳幼児期に身に着けたい力として近年 『非認知能力』 という言葉が注目されています。


ノーベル賞を受賞したジェームズ・J・ヘックマン教授らの行った「ペリー就学前プロジェクト」といわれる研究調査が発端になっています。認知能力は、知能指数といった知的な能力ですが、非認知能力とはどういうことを指すのでしょうか？また保育にどういったことが重要になるのでしょうか？教科書 書物、インターネットなどを使って調べ、分かったことと、感想を記述してください。

調べて分かったこと。
出典（書名 著者名 新聞日付 インターネットの場合サイト名と検索月日）
感想

- ② PPT（14 枚）による特別授業用教材、保育園でのわかりやすい事例を通して非認知能力への理解
- 非認知能力を育む保育実践 認知能力と非認知能力をある程度見分ける力をつけることを目的とした。

(資料 2)

非認知能力を育む乳児保育



調べたことをグループで話し合おう

- 認知能力とは？ 非認知能力とは？
- 非認知能力が高い子どものその後の結果は？
- どんな保育が非認知能力を高めると考えますか？

非認知能力については諸説ありますがこの乳児保育Ⅰでは以下のように仮定します。

- ・ 知能テストなどで測定しやすい認知能力と比べて非認知能力は測定しにくい性質をもっている。
- ・ 認知能力と非認知能力は相互作用しながら発達する。非認知能力は認知能力の発達を促進する。
- ・ 3歳まで身に着けると、そのあと伸びる力になる。

乳幼児期の伸ばしたい

非認知能力を支える3つの柱

- ・ 気づいて探索しようとする力
- ・ やり抜こうとする力
- ・ 人間を理解し関係を調整する力

いうまでもないですが
全ての能力の基本になるもの

安定した愛着
安全基地となる安心できる人、空間



非認知能力を支える3つの柱

- ・ 気づいて探索しようとする力
(好奇心 感動 探求心)

例)お散歩途中で石の裏に虫を見つけ座り込んで見つめている。

★保育士はどうしますか？



イラスト:HUGkumより借用

非認知能力を支える3つの柱

- ・ やり抜こうとする力(やる気 情動調整 忍耐 自信と自尊心 期待と楽観性 +身体能力)
- ・ 例)本棚から本を出すことを覚えて出し続けている。

★保育士どうしますか？



イラスト:HUGkumより借用

非認知能力を支える3つの柱

- ・ 人間を理解し関係を調整する力(安定した愛着の質、他者を知り、理解し、関係を調整する)
- ・ 例)一つのおもちゃを取り合っている。

★保育士はどうしますか？



認知能力と非認知能力を分けてみよう。

- ・ 花や虫の名前を覚える (認 非)
- ・ 泥や水にまみれて遊ぶ (認 非)
- ・ 葉っぱを数える (認 非)
- ・ 昨日は5回、今日は7回縄跳びとべたよ (認 非)
- ・ 砂場でダムをつくるために工夫する (認 非)
- ・ 泥団子をつるつるにしようと磨いている (認 非)
- ・ 積み木を高く積める (認 非)
- ・ 高く積んだ積み木を友達に倒されて悔しくて大泣き (認 非)
- ・ 色水遊びで水に広がる絵具に見とれる (認 非)
- ・ 英語で挨拶できる (認 非)
- ・ 図鑑をみてこれがオオクワガタと指さす (認 非)
- ・ 車の名前をたくさん知っている (認 非)
- ・ 計算ドリルを解くことができる (認 非)
- ・ 文字を書くことができる (認 非)



認知能力と非認知能力は常に相互作用的

年中児A

「先生みてみて、きのうより長くこげるように になった。」

保「うん、見てるね」

A「指一本貸して」

保「いいよ」

A乗り出しのところで保育者の指と自分の指を絡めて滑り出す。指が離れて園庭をぐるっと回って帰ってきた。

保「すごい、昨日より長くのれるようになったね」

A「うん」得意そうな表情で、さらに難しい技に挑戦している年長児をみつめる。



認知能力と非認知能力は 常に相互作用的

年中児A

「先生みてみて、きのうより長くこげるといって、なった。」保育士への信頼・達成と比較 課題への意欲、自分への期待

保「うん、見てるね」

A「指一本貸して」足りない能力をとらえて助けを求める

保「いいよ」

A乗出しのところで保育者の指と自分の指を絡めて漕ぎ出す。指が離れて園庭をぐるっと回って帰ってきた。

バランス制御 身体能力の発達

保「すごい、昨日より長くのれるようになったね」

A「うん」得意そうな表情で、さらに難しい技に挑戦している年長児をみつめる。

自分への信頼、認められてうれしい。年長児へのあこがれ
やり抜こうとする力



非認知能力を阻害しないために

・子どもの邪魔をしない保育

・ホメホメもダメダメもNG なぜ？



イヤイヤ期の2歳に脅しや取引は？

・「あらーそんなことしてたら知らないわよー」

・「しょうがないわねえ〇〇あげるから」

非認知能力を育む 環境構成、保育計画とは

2歳児で考えてみよう

(気づく力 やりぬく力 人間関係)

2歳児の非認知能力を发育を 阻害しそうな要因を探してみよう



③理解度と感想を求める質問紙を作成した。(資料3)

本日の授業についてアンケートの協力をお願いします。無記名でも記名でも可○をつけてください。

1. 非認知能力について よくわかった わかった ふつう わからなかった
2. 非認知能力を育む保育について
 よくわかった わかった ふつう わからなかった
3. 配布資料について わかりやすい ふつう わかりにくい
4. 教師の説明について わかりやすい ふつう わかりにくい
5. グループでの話し合いの時間 長い ふつう 短い
6. グループでの話し合い (複数回答可)
 - ①遠慮なく話せた ②話しにくかった ③様々な意見が出た
 - ④あまり意見がでなかった ⑤まとまらなかった ⑥自由に話せた
 - ⑦グループの意見が一致しがちだった
7. 非認知能力を育む保育について今後自分が実践したいと思う保育について書いてください (自由記述)

1 1. 研究授業の実施概要

乳児保育Ⅰの授業内（11月28日1限 12月4日1限）に行われた。

- ①事前学習のプリントを返却し、3, 4人グループで非認知能力について調べたことを話し合いグループリーダー（座席で指名）に発表する。
- ②PPT 資料を配布、非認知能力とは、についてヘックマンによるベリ－就学前プロジェクトについて説明、介入後数年で認知能力は差がなくなったのに対して、成人後の社会適応などについて差がついたことを説明した。
- ③佐々木（2018）による3つの柱を説明それぞれの柱について、事例を示して、その時保育者ならどうするかという問いを投げかけた。

1 2 - 1. 研究授業の結果、振り返り

①事前学習では hug.kum suku.com からの引用が圧倒的だった。書物からの引用はほとんどなし。学生たちにとってインターネットによる検索が手軽に行われていることまた書籍雑誌などを検索する行動が今回選択肢としてほばないことが明らかになった。

②11月27日実施分（補足12月4日）

- ・時間配分のミスで最後まで話せなかった。そのせいか、理解度を聞くアンケート調査でも12月1日実施分よりも理解度が低い結果となった。
- ・また時間が足りなくなってしまった理由としてベリ－就学前プロジェクトについて板書と口頭で説明し、実験デザインについて言及する時間を使ってしまった。PPTのスライド化しておくべきだったかと反省材料となった。
- ・散歩中なかを見つけた2歳児、本箱の本を散らかしている2歳児に対して、すごいねみつけたね、面白いねといった褒める言葉かけが非常に多かった。
- ・保育士はどうする？という場面での問いに対して、多くの学生は**集団適応**を

促す方向の回答をした。学生たちは幼稚園実習後ということもあり、以上児における集団生活適応について実体験してきており、この教材であつかうのは2歳児だということのアナウンスや2歳児の発達段階を思い出してもらうなど学生の想起が足りなかったことが原因かと考えた。

乳児保育において非認知能力を育むためには多くの場合一人一人の個を尊重するという実践になる。イヤイヤ期の2歳児に対峙する保育士は現場では多くの場合集団適応を優先的に考えるのは想像に難くない。そのような相反する状況の中で多くの場合集団適応の重視が従来の在り方であり、多くの学生が通ってきた過去である、およそ1年間幼児教育学科で修学し、幼稚園での実習を済ませた学生たちがまずは集団適応の方向に考えたことは自然なことだが、今回の授業で非認知能力について学ぶことによって**個の尊重**、についての気づき、が具体的になったものと捉えることができる。

また個を尊重する保育が集団生活の中で実施されるためには、保育士から子どもへの具体的な関わりということだけでなく、時間空間保育士の人数、保育士の気持ちの余裕ということへの学生の気持ちが向けられていった記述が「時間の余裕、急かさない、気づきを大事にする 解決を急ぎすぎない」などの書き込みから見出された。

しかしながら、このような気づきが明らかに感じられる書き込みは大多数とはいえず、教員の板書だけ記入していた学生も一定数確認された。非認知能力という用語の捉えにくさ、従来の保育の中でも主張されていた、子どもの気持ちによりそう、主体性を大事にする、という題目とどう違うのか、という点が学生たちにとってもわかりにくかったと感じる。

一方で学生の書き込み数多かった最後のスライドで自分が犯してしまいそうな保育という記述では多くの学生がすぐ止める、ほめすぎや援助しすぎ急がすことといったことを記述しており、記述数の多さからも、学生自身に内省があることが分かった。

③ 12月3日実施分

- ・前日の反省をうけて学生たちに考えてもらいながら時間内に終了することができた。2歳児の特徴を想起してもらう、**短期的な解決にこだわらなくてよい**ということを意識して伝えた。学生たちからは、いままでなにかというとはめてしまい、邪魔していたかもしれない、という気づきの反応が見られた。前期に学習理論で扱ったアンダーマイニング効果（外的報酬によって行為者が内発的に行っている行為の動機が低減してしまう現象）を思い出してもらい、説明を行った。また多くの場合集団適応が優先される園の現場や保育士の心情、などを意識的に話した。また現場の園によってもまだまだ新しい保育の流れであり、集団適応が優先される場合なども多いということも話した。また非認知能力を育む保育としてどのような例が挙げられるかという問いに対して「時間の余裕がある保育」という回答が複数あった。

12-2. 研究授業でのやりとり

PPT 資料に従ってグループでの討議をしてもらい、リーダーがグループで話したことを発表するという形態をとった。グループ人数は3人もしくは4人、顔見知りのといってよい。

(1) 教員からのレクチャー

従来の保育と非認知能力を育む保育について、差別化が難しく感じると考え、やや極端な例ではあるがいままでの教育保育のなかにIQなどの賢い子を育てるればよい学校、高い収入と結びついていたが、ヘックマンらの報告から異なる側面があることが分かったという導入から話を進めた。

非認知能力はいままで重視されてこなかった、また測定しにくい面がある。しかしいわゆる賢さであるIQは介入後4年程度で差がなくなったのに、40歳時点では社会的適応に大きな差があらわれた。この差を子の介入によって得

られた非認知能力ととらえ、従来の日本の保育現場ではあと伸びする力などを言ってきた。

この非認知能力が何かということについては OECD 文部科学省が方向性を示しているが、まだ議論の余地があるところではある。また保育現場で育むということから、成長可能性のある部分でなくてはならない、そういった意味からこの授業では乳児期に育みたい非認知能力として、プリントにある3つの力を具体的に保育現場でどうするかということをみんなと考えていきたい。

また今までの授業で繰り返し伝えたが、乳児期の心理発達にとって健全な愛着ということは何にも増して重要なことであることに変わりはない。親子が健全な愛着を発達させ、子どもがそれを安全基地として探索活動が可能であること、もし親子間でそれが困難な場合にはその子にとって保育園や保育者は安全基地として機能することが非常に大切である。そのうえで1. 気づいて探索しようとする力 2. やり抜こうとする力 3. 人間を理解し関係を調整する力、を育てる乳児保育とは何か考えてみたい。

12-3. 授業中の学生の反応

★保育士はどうしますか？という場面で

気づいて探索しようとする力：散歩中に石の裏の虫に見入る子→おもしろいね、すごいね、お散歩から帰ったら園庭でしょうね。

やり抜こうとする力：本箱の本を散らかす→気がむまでやらせるという回答はなし、途中からしめることを楽しめるようにする。

人間を理解し関係を調整する力：おもちゃを取り合う→多くの学生がお互いの気持ちを代弁すると答えた、

この場でのとりあえずの解決をもとめる傾向がまずは強くあらわれた。

そこで教員からこの授業は2歳児を想定している。学生たちは幼稚園実習直後で以上児のイメージを重ね合わせているかもしれないが、2歳児はかなり幼

い、発達過程でも他者の気持ちに気づくのは3、4歳からと話すと、流れが少し変わってきたように感じた。

⑤ページ毎に学生のプリントメモから（重複をさけつつ記入されたコメントを記述した）

（1）気づいて探求しようとする力

- ・ じゃましない！この時間を確保する
あくまでも2歳児
- ・ 園庭にもあるか遊びの時間に見てみようね。
- ・ 集団生活と能動性とのバッティング
- ・ ジャマしない保育 保育士が語りかけすぎない。
- ・ 非認知能力伸ばすためには集団生活というより個を大切に
- ・ 2歳一人遊びが当たり前の時期
- ・ 集団生活を学ばせながら思いをどう尊重するか
- ・ 時間を確保してあげる
- ・ 子どもの興味をさえぎらない
- ・ 子どもたちがこういうことができるようなルート、時間を考える。
- ・ 子どもの気づきを大切にする、せかさない。
- ・ 保育士の人数を増やす
- ・ 興味をとぎれさせない、近くにいて見守る 下手に声をかけない
- ・ そんなところにいたことを一緒に驚く。人数が多すぎなければ全員で発見を共有する。
- ・ まずは観察する→子どもが今なにか見つけて考えているかもしれないから
→子どもが見つけて話しかけてきたら環境を構成することがポイント

非認知能力を支える3つの柱

- ・ 気づいて探求しようとする力
（好奇心 感動 探求心）

例)お散歩途中で石の裏に虫を見つけ座り込んで見つめている。

★保育士はどうしますか？



イラスト：HUGkumより借用

非認知能力を支える3つの柱

- ・やり抜こうとする力(やる気 情動調整 忍耐 自信と自尊心 期待と楽観性 +身体能力)
- ・例)本棚から本を出すことを覚えて出し続けている。

★保育士どうしますか？



イラスト:HUGikumより借用

(2) やり抜こうとする力

- ・やりたいただけやらせる やりきらせてあげる
- ・やり抜く力というところで内発的動機だから
- ・出してもいい 直す競争をする
- ・子どもが満足するまでやりきらせる

- ・気が済むまでやりきらせる→気が済むまで子どもができる環境を整える。守る。※止めることや片付けることが多い
- ・出すことは注意せずその後片づけることを少しずつ教える（一緒におこなう）
- ・やりきらせてから片づけを次の課題にする事

(3) 人間を理解し関係を調整する力

非認知能力を支える3つの柱

- ・人間を理解し関係を調整する力(安定した愛着の質、他者を知り、理解し、関係を調整する)
- ・例)一つのおもちゃを取り合っている。

★保育士はどうしますか？



- ・「そのおもちゃが欲しいんだね」って聞いてあげる 理解してあげる
- ・そのようなことが起こらない環境設定する
- ・気持ちを受け止める→解決しなくてよい！
- ・おもちゃをとられてくやしかったね、とくやしいでおわらせる


- ・気持ちがかなわない時もある
- ・お互いの思い能動的な活動を見守る。もしどちらが取ったとしても取られた方の気持ち「くやしい」などの気持ちによりそう。
- ・2歳までは他者の気持ちを理解する時期ではない（4歳ころから）
- ・気持ちのない「ごめんね」は意味がない

- ・「車が欲しい」という気持ちを大切に。でもおもちゃはひとつしかない。子どもの気持ちを受け入れてあげる。
- ・自分の気持ちが通らないこともあることを知る。
- ・自分を受け止めてもらう
- ・「ごめんね」を無理に言わせることはない。
- ・解決しようと思うのではなく、もっと長期的に考える。
- ・どっちにも「赤い車ほしかったよね」と受け止める。
- ・イヤだイヤだも大切
- ・自分が受け止められないと他者をうけとめられない
- ・ケンカを気が済むまでさせ、ケガをしそうになったら止める
- ・他者を受け止める前に自分を受け止めてもらう、解決しすぎ解決よりももっと長期的に考える。

(4) 非認知能力を阻害しないために

非認知能力を阻害しないために

- ・ 子どもの邪魔をしない保育
- ・ ホメホメもダメダメもNG なぜ？



イヤイヤ期の2歳に脅しや取引は？

- ・ 「あらーそんなことしてたら知らないわよ〜」
- ・ 「しょうがないわねえ○○あげるから」

- ・ アンダーマイニング効果
- ・ できたことに対して報酬を与えてはいけない。
- ・ 「すごいねー！よくみつけたねー！」 こういう報酬は動機をさげてしまう。やるきがなくなる。
- ・ 突き放しになってしまうので×

- ・ ディスカウント
- ・ 本当の危険からは守る
- ・ 大人の権力を振りかざしているからNG
- ・ 取引 行動をやめることへの意欲に対する報酬になる。
- ・ 親がやりがちな脅し 取引 なぜ？ 大人の方が知能がある。大人の力で子どもを説得させてしまうから一時的。心の成長にはつながらない。即物的。

- ・子どもが言ってきたら十分にほめる
- ・突き放している。・ディスカウント、それは私の範疇ではないと言っている、傷つく子もいる。
- ・心と心をむき出しにして会話していく

(5) 環境構成 保育計画

- ・一人でなにか黙々と行っていたら手をださない
- ・「みてみて！」に対しては受け入れて「すごいねー！」
- ・見つけたことに対してほめすぎない
- ・ケンカを解決させることに意識をむけすぎない。なぜこのケンカがおきたかを読み取って同じことがおきないような環境づくり
- ・砂、水、泥遊びをやりきる→よごれてもいい寒すぎない環境構成
- ・見守る 邪魔しない 体感
- ・自然の多い環境（遊びを発展させられる素材の多い場所）自由に過ごせる時間をつくる やりたいという気持ちを支援する。
- ・保育士の声掛け「どんなかんじがする？」「つめたいね」あえて雨の日に出かけてそのあとのケアをする「どんな匂い」汚してもいい 散らかしてもいい
- ・どんなことにも時間を多くする、時間の余裕をつくる
- ・年上の活動を見る→自分がそうになっていく将来像をつくる。
- ・花や虫などと触れ合える時間をつくる→答えの見えないことと関わる
- ・クラスや花の名前を知ることに重点がおかれやすいけれどそのほかの部分に非認知能力がある。
- ・子どもの発見に対応できるような余裕のある時間を設定する。

非認知能力を育む 環境構成、保育計画とは

2歳児で考えてみよう
(気づく力 やりぬく力 人間関係)

- ・ 命と関わる体験ができるようにする。
- ・ 集団適応⇔個の対応 見守る環境
- ・ 集団<個 を保育士がどれだけできるか

(6) 2歳児の非認知能力を**阻害しそうな**要因をさがしてみよう（自由記述）

- ・ 見てみて！に対して「すごいねー！
よく見つけたねと見つけたことに対
してほめる

- ・ ケンカを解決しようとする
すぐだめといって止める
集団を大切にして発見する機会を
減らす

自分だったらホメホメしそう

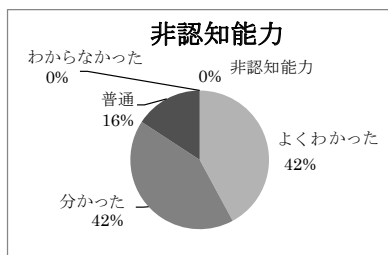
- ・ 絵を描いている子をほめる 物の取り合いなどのケンカを円満に解決しよ
うとする
- ・ 製作などで、保育者の説明した通りにやっていない子に指摘をする
- ・ どこまでいけない、やっていい、ダメと言ってしまいそう
- ・ 着替えを自分でやろうとしてもすぐに手伝ってしまいそう。
- ・ 絵を描いたら何を描いているかわからなくても上手だねとたくさんほめる。
- ・ できないことを代わりにやってしまう。
- ・ 甘やかす。
- ・ 集団生活をしている時に何か新しい発見をして止まっていたらそれを中断
させてしまいそう。
- ・ 否定したらいけないと思い、つい全部を肯定してほめてしまいそう。
- ・ 止めないようにとっても後の苦労を考えたりして止めてしまいそう。
- ・ 手伝いすぎてしまうこと（着替えなど）
- ・ 子ども自身が考えている時に声をかけてしまう。

2歳児の非認知能力を发育を
阻害しそうな要因を探してみよう



- ・危なそうだったらすぐ止めてしまう。
- ・戸惑ったりしているのを見て、こうだよと言ってしまう。
- ・「やって」と言われてすぐやってしまう
- ・泣いていたらすぐかけよって「どうしたの？」と聞く
- ・時間におわれてしまい、子どもができそうな場面で手をだしてしまい、きっかけをこわしてしまう。
- ・保育者が子どものやることに手をだしすぎている ホメすぎてもだめ
- ・トラブルなどで仲裁に入って解決に向けて話し合ってしまう
- ・子どもに考える時間を与えずに一方的に話してしまう。
- ・答えを求めすぎる 完成を求める
- ・子どもの自主的な遊びに介入しすぎる。
- ・しつこいと無視しちゃう
- ・私がやった方が早いから子どもに頼ったり手伝いをしてもらったりできない。
- ・ほかの子の行動にあわせようとしちゃう
- ・聞かれた答えをすぐ言うってしまう。
- ・時間がないとき必要以上に援助してしまいそう。
- ・止める ほめる 急がす すぐ答えを出す
- ・叱ってばかりはよくない
- ・少しできただけで過剰にほめてしまう

1 3. 質問紙調査の結果



①非認知能力について

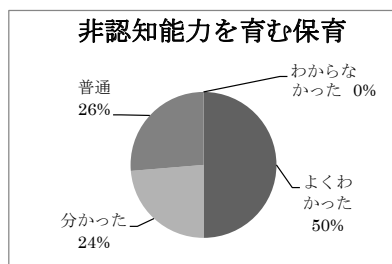
よくわかったとわかったとで合わせて84パーセントになったことについては一定の評価が得られたと思うが、普通と答えている16%の学生の

ほうにより大きな意味があると思う。認知能力ではない、という意味での非認知能力であって、その内実についてはいまだ議論があるという点で分かりにくさがあったかと思う。

しかしながら分かりにくい課題について時間とエネルギーをかけて取り組んだのが今回の課題ともいえる。わかりにくさやあいまいさに耐える学習態度について、今後授業でも学生に伝えていきたいと考える。

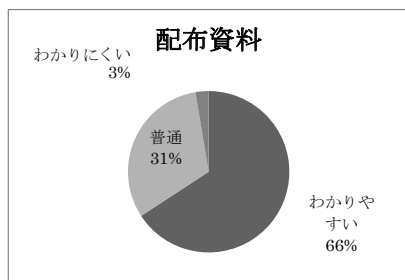
②非認知能力を育む保育について

非認知能力を育む保育についてはより普通と答えた学生が増えていることに注目したい。そもそもわかりにくい非認知能力についての説明があり、さらにそれを実践でどうするかというところ



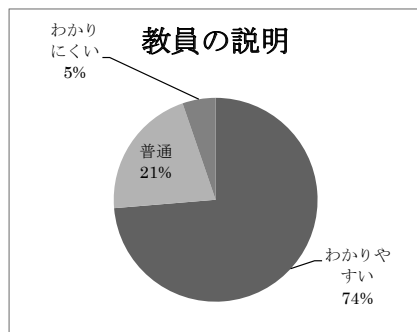
ころに戸惑いがあったと思う。非認知能力についてはあと伸びする力とか、試験の成績だけよくてもその後の人生での適応がいいとは限らないといった経験的に理解しやすい事由が述べられるが、実際の保育の中で、何が非認知能力を伸ばすのか、というところで、分かりにくさがあり、さらに、非認知能力を伸ばす保育と従来からいわれているのびのび育てる、ひとりひとりを大切にといった保育の姿勢と違いがあるのか、といったところにわかりにくさや馴染みにくさがあったのではないだろうか。前述したように学生たちにとって集団適応を優先する態度がかなり強固な信念としてあるところが理解を妨げたのではないかと考える。その大きな理由として、具体的に保育者としての対応を考えるときに、「その場で解決しなくてもいいよ」という言葉が学生の理解を進めたり、プリントへの書き込みが多かったことから、多くの学生がその場でのとおりあえずの解決や保育が大過なくすぎることを考えるということが伺えたからである。

③ PPT の配布資料については66%のわかりやすいという評価では、評価と



よく話している環境を考慮すべきだったかと思う。

してはあまりよくないかと考えた。反省するポイントとして、もっと乳児クラス 2 歳児だということをはっきりと強調して伝えるべきだったかと思う。幼児教育学科 1 年の後期というタイミングであり、まだまだ発達過程の理解や体験も少なく、日頃以上児について



う課題のもつ分かりにくさなどが作用しているのではないかと想像する

④教員の説明についてわかりにくいという回答した 5% は配布資料よりも多くなっており、注目すべき点であろう。特に最初に研究授業をおこなったクラスでは、教員自身の整理が足りておらず、散漫で説明が多くなってしまい、時間も足りなくなっていました。さらに非認知能力とい

⑤今後実践したい保育（自由記述）

- ・時間に余裕をもった活動
- ・5感を味わえるような活動
- ・ほめすぎない、子どもの発見を大人の事情でさえぎらないように時間の余裕をもちたい
- ・こどもたちの遊びの過程をほめてしまうことが多い見せてくれた時を主にほめるようにしたい、
言い合いで解決を求めないことは園の先生もおっしゃっていたので先生にあわせながらどの程度までやるかを考えていきたい。

- ・子どもが余裕をもって考える時間を整えたり、保育者や園の状態に子どもをあわせるのではなく、子どもが非認知能力を身に着けられるような関りをしたい。
- ・子どもの気づきを伸ばせる保育
- ・散歩に行く、季節にあったものを部屋に飾ったりなど触れ合う
- ・すぐ子どものやろうとしていることを手を出したり結果をはじめから出そうとしない
- ・ほめちぎったりすぐにダメということは避けたいと思った
- ・あまり褒めすぎず少し身も守るのも大事だと思った
- ・時間のゆとりのある保育
- ・遊びに自由があるようにしたい ほめる止めるなどをすぐしないで様子を見守るようにしたい
- ・子どもの好奇心をさまたげる発言や行動を控え見守ること。やりきらせることを大切にしたい
- ・外からほめすぎないように、子どもたちから言って来たら応えるようにしたい。無理に集団行動させない。
- ・子どもたちがなるべくやり切った感覚を感じられるまで活動させてあげる
- ・子どもが興味を持ったものを阻害しないように時間を考えていきたいです。
- ・褒めすぎないということを実践していきたい
- ・集中しているときにたくさん話しかけて邪魔しないで褒めすぎずに応援したりする声かけをする保育を実践していきたい。
- ・あえて汚れてみる、ちらかしてみるなど、整った状態を目指さないような保育
- ・ネイチャーゲーム
- ・子どもの邪魔をしない保育
- ・子どもが自由にできる環境をつくる。またけんかしていてもすぐ解決するのではなく見守ること

14. 研究授業の成果

調べ学習の導入から、研究授業でのグループ討議、配布資料への書き込み、授業評価の質問紙という丁寧な流れでおこなったことで、茫漠とした分かりに

くさがあり、新奇な情報でもある非認知能力を育む保育について一定程度の理解と考察が得られたものと評価できるであろう。理解だけでなく、非認知能力を阻害する言動について記述させることで、**探索活動の邪魔をしない保育、ホメホメとダメダメをしない、一人ひとりの探索活動を十分に保障する時空間を保育者がデザインする。**といった筆者のねらいに沿った学生からの発信は複数見られたことは大きな収穫であったと思う。また上記のような保育が一般的な就職先である公立保育園では人手や時空間の余裕の無さのために難しいこと、について学生のなかで考察があった発言もうれしく感じた。このような公的保育の現状を変えていくのが、我々教員や学生達である、と伝えた。

15. 謝辞

この度の研究に協力をいただいた、幼児教育学科1年のみなさん、教職員、に感謝申し上げます。家族や友人たちにも日ごろの感謝を申しげる。

16. 参考文献

- 遠藤利彦ら『認知（社会情緒的）能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する報告書 平成27年度研究プロジェクト報告書』 2017年
- 佐々木晃著『0～5歳児の非認知能力』チャイルド本社 2018年
- OECD 池迫浩子 宮本晃司（訳）『家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成 国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆』 2015年
- ベネッセ教育総合研究所『これからの幼児教育』 2016夏
- 西田季里『非認知能力に関する研究の動向と課題ー幼児の非認知能力の育ちを

支えるプログラム開発研究のための整理一』 東京大学大学院研究科紀
要 第58巻 2018年

沼山博 三浦主博『子どもとかかわる人のための心理学』萌文書林 2019年
大豆生田啓友 大豆生田千夏『非認知能力を育てるあそびのレシピ』講談社
2019年

秋田喜代美監修 山邊昭則 多賀巖太郎『あらゆる学問は保育につながる』東
京大学出版会 2016年